

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R2入学 現3年生	国語			数学			理科		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)
	62.4	62.2	63	51.1	48.6	42	50.2	42.5	41
	(1.00)	(0.94)	(0.92)	(1.02)	(0.94)	(0.89)	(1.07)	(0.78)	(0.85)
R4正答率の全国比			0.91			0.82			0.83

◎1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和4年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

・国語科では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」(知識及び技能)と「読むこと」(思考力・判断力・表現力等)の領域で、全国と県の平均正答率を5ポイント以上、下回った。特に、「読むこと」では登場人物の心情や場面に即した内容の理解が乏しく、文章全体の内容把握が不十分であったと考えられる。

・数学科では「数と式」「関数」(学習指導要領の領域)で、全国と県の平均正答率を5ポイント以上、下回った。また、理科では「エネルギー」「粒子」を柱とする領域で、同様に全国と県の平均正答率を5ポイント以上、下回った。特に、数学的な視点での考察や理科での観察と実験の結果を踏まえた説明を問う設問では全国と県の平均正答率が10ポイント以上低く、記述式による解答に苦手意識が感じられる。また、既習の学習内容同士を結び付けて考える複合的な問いに対する正答率が低い傾向にある。

・学校の授業以外の「1日当たりの読書時間が10分未満」の生徒の割合が全体の6割以上であり、日頃からまとまった文章に触れる時間が少なく、読解力の低下につながったと考えられる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

・各教科ともに、授業の振り返り時等に「書く活動(演習や説明等)」を設定する。

・数学科では、基本的な計算技能を高めるために演習を行ったりグラフや図表から知り得た情報を整理する手立てを具体的に示したりする。国語科と理科でも同様に、出題形式や傾向に慣れるために学習状況調査等の過年度の問題演習を授業に取り入れ、単なる解説だけではなく事象を多角的に捉える視点や考え方、情報を整理する手立て等を示して、論理的思考の向上につなげる指導を行う。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

・「学習習慣が身に付いていない」「勉強の仕方がわからない」という理由から、自主学習だけではなく家庭での学習に取り組むことができない生徒が多い。そこで、生徒たちが主体的に課題に取り組むことができるように、習熟度に応じた課題を個別に提示したり、生徒自身が選んで取り組むことができる課題を作成して提示したり、工夫が必要である。また、家庭との連携をより密に図るために、学校ホームページや学校連絡メールの効果的な活用法を模索して、より効果的な運用を行う。

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R2 入学 現3年生	国語			数学			理科		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)
	64.2 (1.02)	71.2 (1.07)	76.0 (1.12)	54.7 (0.98)	54.7 (1.06)	54.0 (1.15)	61.9 (1.05)	66.8 (1.23)	56.0 (1.17)
R4 正答率の全国比			1.10		1.05		1.14		

◎ 1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「令和4年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

学習状況調査[3教科共通]に読み取れる実態

- ・ 全国や県と比べると、3教科とも平均正答率が高い。
- ・ 無回答率が、全国や県と比べると低い。あきらめずに自分が知っている知識でなんとか解いていこうとする態度が身についている。
- ・ 問題形式では、記述問題での正答率が低い傾向にある。

学習状況調査[国語]から読み取れる実態

- ・ 漢字や文法などの知識事項は定着していると言える。
- ・ 自分で問題を読み取って、自分の言葉で表現することが苦手である。

学習状況調査[数学]から読み取れる実態

- ・ 武雄北中学校の正答率は佐賀県と全国の平均正答率を上回っているが、「図形」の分野において全国平均を下回っている。具体的には、三角形の合同条件や証明問題について苦手を感じている生徒が多い。
- ・ 「素因数分解」などの基本的な計算問題ができていない。
- ・ 文章の意味を正しく理解し、式に表したり、成り立つかどうかを調べたりすることについて劣っている。

学習状況調査[理科]から読み取れる実態

- ・ 全体としては、全国や県に比べると、平均正答率は非常に高い。
 - ▲ 2－(1) 気圧に関する知識・技能の問題で、正答率が全国を下回っている。
 - ▲ 3－(2) 気体の性質の思考・判断・表現の問題で、正答率が全国を下回っている。
 - ▲ 5－(1) 力のつり合いの知識・技能の問題で、正答率が全国を下回っている。
 - ▲ 5－(3) 実験の計画について、記述式の問題で、無回答率がやや高かった。
- ・ 無回答率が全国や佐賀県と比べると非常に低い。
- ・ 2－(2) 天気図の思考・判断・表現の問題で、正答率が全国を大きく上回っている。
- ・ 3－(3) 化学変化に関する思考・判断・表現の問題で、正答率が全国を大きく上回っている。

意識調査から読み取れる実態

- ・ほとんどの生徒が家庭学習の習慣が定着しており、テレビゲーム等に費やす時間は短い。
- ・ICT機器を使った学習については、自分の考えをまとめ、発表する場面で積極的に活用している。
- ・授業では、課題解決に向けて自分で考えたり、自分の考えをまとめたりすることができていない生徒がやや多い。
- ・ほとんどの生徒が、初来の夢や目標をもち、人の役に立つ人間になりたいと考えているが、最後までやり遂げようとする気持ちやチャレンジ精神はあまり強くない。また、自己肯定感については、学年としては低くはないが、自分に自信をもてない生徒が数名いる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・自分の考えや思いを、自分の言葉で表現させる機会を増やす。
- ・電子黒板にモデルやリード文を示し、書くことが苦手な生徒にも、取り組もうとする意欲や書けたという成功体験をもたせる。
- ・定期テストや課題テスト等で記述式の問題を増やす。
- ・学級活動や道徳の授業では、自己肯定感を高める教材を計画的に取り扱っていく。
- ・感染症対策を十分にとりながら、話し合い活動など意見交流の機会を増やす。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・タブレットドリルを活用することで、家庭学習の充実、基礎学力の定着につなげる。
- ・学級活動で話し合い活動や、レクリエーションの企画などを通して、自分の考えを表現する場を増やす。
- ・行事等の活動方法を工夫して、コミュニケーション能力を高める手立てをとる。
- ・学校生活全般の中で、生徒自身が自ら選択する自己決定の場面を意識的に設定する。
- ・生徒会活動では、生徒自身による企画、立案の行事を増やす。

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R2入学 現3年生	国語			数学			理科		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)
	59.7	61.0	62.0	50.6	49.2	42.0	42.1	47.3	42.0
	(0.96)	(0.92)	(0.91)	(1.01)	(0.95)	(0.89)	(0.9)	(0.87)	(0.88)
R4 正答率の全国比			0.89		0.81		0.85		

◎ 1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「令和4年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

<p>【 国語 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 短答や記述の無回答率が高い。 根拠を明確にして書くことや内容を解釈するなど文章を正確に読み取り表現する問題に対する正答率が低い。 問題と問題文を正確に読み取る力と自分の考えを表現する力に課題がある。 <p>【 数学 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「素因数分解（中1で学習）」が分かっていない。（忘れている？） 表、式、グラフを関連づけてみたり、考えたりすることができない。 下位生徒の層が多い。 連立方程式を解くなど、文字式や方程式の計算などは、県や全国との差はなくなってきている。 <p>【 理科 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題文の中から必要な情報や条件を正確に拾えていない。（特に化学・物理・地学） 必要な条件や方法を説明することが苦手な生徒が多い。 探求の過程における検討や改善を問う問題の弱さで考えの妥当性や、計画が適切か検討して改善することに課題が見られる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

<p>【 国語 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 条件作文を設定し、条件に合わせて書く練習をする。 テストや課題を用いて文章のどの部分と問題文が対応しているかを考えさせる機会を設定する。 学習したことを理解し活用できるかを自分で振り返られる終末問題に取り組みせる。 <p>【 数学 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中1の学習内容の学び直しが必要。授業の中で関連のある内容を取り上げて、丁寧に扱うようにする。 式→表→グラフの流れだけでなく、表→式→グラフ、グラフ→式→表など様々なパターンで繰り返し指導したり、そのような見方が必要な教材を扱ったりする。
--

- ・ 基礎基本や本質・理由を大切に日々の授業を行う。

【 理科 】

- ・ 実験計画→実験→考察→再検討をさせるような授業づくり。
- ・ キーワードをつかって考察させる。
- ・ 問題の読み取り力の指導

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・ 朝の会や帰りの会、学活などの時間で、自分の考えを表現する機会を設定する。(1分間スピーチ)
- ・ 学活などの時間で、指定のテーマ(例えば絵画など)について対話する機会を設定する。
- ・ 下位の生徒でも取り組めるような基本的な内容で、例題や書き方など示した宿題をこまめに出す。

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R2入学 現3年生	国語			数学			理科		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)
	59.7	68.6	69.0	46.3	53.0	48.0	47.4	60.3	55.0
	(0.96)	(1.03)	(1.01)	(0.92)	(1.03)	(1.02)	(1.01)	(1.11)	(1.15)
R4正答率の全国比			1.00		0.93		1.12		

◎1・2年時は佐賀県学習状況調査，3年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率，下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和4年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【全体】

・県との比較では，国・数・理ともに1年時より数値が上昇した。特に理科に伸びがみられる。

【国語】

・全国比と同じであるが，思考力，判断力，表現力の「読むこと」の領域に課題がみられる。

・文章の要素を取り入れて記述することができないため，誤答が多い。

【数学】

・全国比と比べ正答率が低く，記述問題の無答率も高い。また，異なる解き方をする問題や条件を書く問題の無答率が高い。

【理科】

・全体的に県や全国の正答率と比べると高い。

・実験結果から考察する問題の正答率が，全国や県の正答率と比べると非常に高い。

・身近な現象と学習内容を結びつける問題の正答率が，全国や県の正答率と比べると低いものがみられた。

【意識調査】

・「友達と協力するのは楽しい」と思っている生徒は97.3%で，全国や県と比較しても多い。

・「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」と答えた生徒は75.3%，「将来の夢や目標を持っている」と答えた生徒が75.3%と，全国や県より多い傾向にある。

・「自分と違う意見について考えることは楽しい」と思わない生徒が，全国や県と比較すると若干多い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり，指導方法の改善・充実のための重点取組

【国語】

・関連する話の展開や象徴する話の展開などの教材を読み取らせ，協働的に学ばせる授業を仕組む。

・物語文の中の発言や心情について読み取った話の展開をもとに，生徒が説明する場を設ける。

【数学】

- ・読み取る力（文章の読み取りや資料の読み取り等）を身につけさせる教材づくりや、それに取り組む時間を確保する。
- ・単元末または、領域の最後に「読み取りタイム」を位置づけて、数学的な読解力を養う。
- ・様々な考え方、解き方を問う問題や条件を書く問題にも取り組ませ、多角的、多面的に思考する力を養う。

【理科】

- ・授業では、教師が与える情報を吟味して、自分で実験方法を考える場面や予測をして実験や観察に取り組む場面を設定する。
- ・知識を習得した後は、すぐに問題演習を取り入れ、スモールステップで自信をつけさせる。その際に、学び合いの場面を設定し、「わからない」を「わかる」に変え、解決したり達成したりできるようにする。
- ・生活の中に見られる身近な現象を教材として多く取り入れ、学習内容との関連を深める工夫を行う。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・朝読書の充実を図り、読む力、理解する力を身につけさせる。
- ・毎週金曜日、朝の会に全校で取り組んでいる「読み取りタイム」では、読解力を高めるためにテキストから「情報を選び出し、理解する」という取組を行っている。生徒が興味や関心を持って取り組めるような教材を工夫し、継続して行う。
- ・学級活動を中心に朝の会や帰りの会の時間で、「何のために学ぶのか」や「自分のよさを伸ばすにはどうしたらよいか」「他者と異なる意見も参考にしながら自分の考えを吟味して、生き方を模索しているか」など、自己を見つめる時間を設けることで、継続してキャリア教育の推進を図る。
- ・進路学習の中での「面接」を能動的に捉え、生徒同士による面接練習（出題者と返答者）を行うことで、質問内容をわかりやすく伝える力や、質問内容を理解して自分の考えを的確にまとめ他者へ伝える力を伸ばしていく。

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R2 入学 現3年生	国語			数学			理科		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)
	59.5	69	63	48.8	47.4	42	54.2	52.4	42
(0.95)	(1.04)	(0.92)	(0.87)	(0.92)	(0.89)	(0.92)	(0.97)	(0.87)	
R4 正答率の全国比			0.91			0.81			0.85

◎ 1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「令和4年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】

・「情報の扱い方に関する事項」及び「書くこと」については、県及び全国平均正答率を上回っており、「我が国の言語文化に関する事項」については県及び全国平均正答率とほぼ同程度であるが、他の事項等については県及び全国平均を下回っており、今後も国語で正確に理解し適切に表現する力の向上を図る必要がある。

・各設問において、「文脈に即して漢字を正しく書くこと」を問う設問及び「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと」を問う設問については、県・全国平均を上回っている。

【数学】

・「データの活用」の領域は県及び全国平均正答率とほぼ同程度であるが、他の「数と式」「図形」「関数」の領域は県及び全国平均を下回っており、基本的な知識・技能の定着及び数学的な見方・考え方の育成を図る必要がある。

・各設問において、「連立方程式を解く」設問及び「箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができるかどうか」を問う設問については、県及び全国平均を上回っている。

【理科】

・「エネルギー」を柱とする領域については、県及び全国平均正答率とほぼ同程度であるが、「粒子」「生命」「地球」を柱とする領域については県及び全国平均正答率を下回っており、観察・実験等を行うことを通して、基本的な知識・技能の定着及び思考力・判断力・表現力の育成を図る必要がある。

・各設問において、「気圧に関する知識・技能」を問う設問については、県及び全国平均を上回っている。

【意識調査】

・「国語、数学、理科の授業の内容はよく分かる」と肯定的に回答した生徒の割合は、県及び全国平均を上回っているが、家庭学習を毎日2時間以上していると回答した生徒の割合は、県及び全国平均を下回っていることから、授業改善及び家庭学習の時間・内容を充実させ、生徒一人一人の学力の向上を図る必要がある。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

・北方中授業スタイルである「授業の振り返りを生徒が説明する授業」「話し合う目的が明確な授業」を推進し、生徒が見通しを持って学習に取組やすくするとともに、生徒が学びを振り返りやすい授業づくりを行う。

・ICTを活用した授業改善を推進し、生徒一人一人の状況に応じた指導の充実を図る。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

・「授業と家庭学習をつなぐ『前進ノートA』」及び「家庭学習の定着を図る『前進ノートB』」の取組の充実を図る。

・昨年度から家庭と連携して推進している「810作戦」の取組を徹底し、よりよい生活リズム及び家庭学習の定着を図る。